

首都圏“待機児童”レポート

2009年4月 認可保育園入園申請者についての調査より

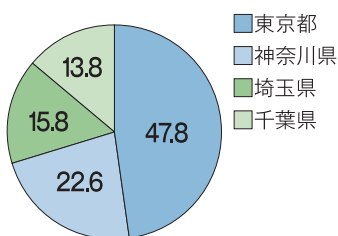
2009年4月における認可保育園の待機児童数は、前年同時期の1.3倍に増加し、
全国で2万5千人以上います（厚生労働省発表）。
待機児童の多い首都圏の保育園入園の実態や保育料の負担感、
母親の働き方の希望など、最新の実態をレポートしました。

調査概要

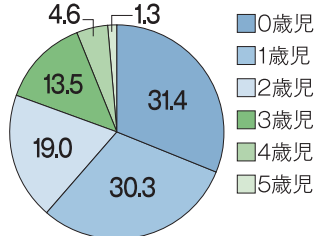
- 調査対象：2009年4月入園に向けて、首都圏の認可保育園に入園申請をした母親
- 有効回答数：720人
- 調査時期：2009年9月11日～13日
- 調査地域：東京・神奈川・埼玉・千葉
- 調査方法：インターネット調査
- 調査項目：保育園入園申請・利用の実態、申請に向けての情報収集や行動、保育料や補助の実態、母親の働き方の希望、保育や子育て支援へのニーズ、「子ども手当」の使い道など

基本属性

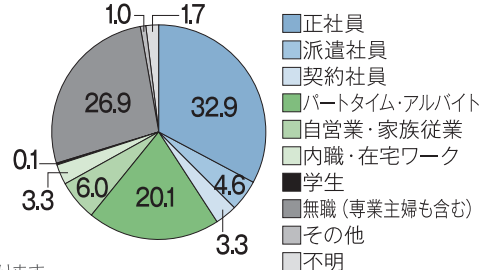
● 入園申請した自治体 (%)



● 入園申請した年齢枠 (%)



● 入園申請時の母親の就業形態 (%)



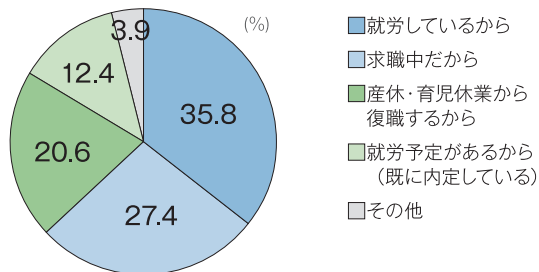
*図表の数値は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

2009年11月5日 発行
株式会社ベネッセコーポレーション ベネッセ次世代育成研究所
発行人：新井健一 編集人：後藤恵子
調査担当：高岡純子・持田聖子
問い合わせ先：03(3295)0294（10～17時 ※土日祝日と12～13時除く）
〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/>（このレポートがダウンロードできます）

入園申請をした理由の第1位は「就労しているから」(35.8%)。第2位は「求職中だから」で全体の27.4%。

Q 2009年4月において、対象のお子さんを保育サービスに預けたいと思われた理由を教えてください。

● 図1



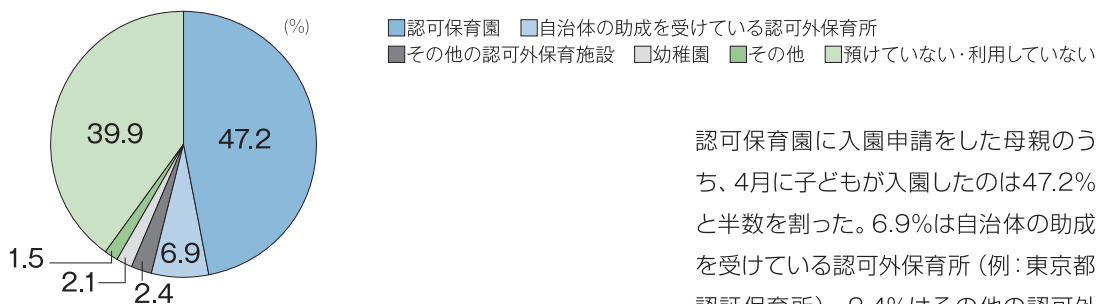
※「保育サービス」とは、保育園、認可外保育所などの保育施設や、ベビーシッター、ファミリーサポートセンターなどを指す。親族・知人による預かりなどは含まない。
 ※「対象のお子さん」とは、2009年4月度に保育サービスに入園・利用申請した子どもを指す。対象の子どもが2人以上いる場合は、未子を対象とする。
 ※「その他」には、選択肢として用意した「家族・親族などの介護があるから」「自分が病気・障がいがあるから」「自分の就学のため」も含む。

認可保育園への入園申請時点で、なぜ子どもを保育サービスに預けたいのか、理由を選択肢から選んでもらった。その結果、母親の35.8%が入園申請時点で既に就労していた。産休・育児休業からの復職者(20.6%)を合わせると、入園申請時点で仕事をもっている母親は全体の56.4%であった。「就労予定があるから(既に内定している)」は12.4%、「求職中だから」は27.4%であった。

本調査において2009年4月に認可保育園に入園したのは、申請した家庭の半数以下の47.2%だった。

Q 2009年4月において入園・利用を決定された保育サービスについて、あてはまるものをひとつ選んでください。

● 図2



※「その他」には、選択肢として用意した「市区町村の保育ママ」「認定こども園」「事業所内保育所」「ベビーシッター」「ファミリーサポート」も含む。

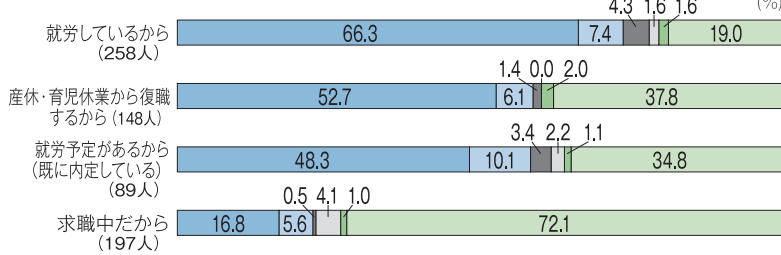
認可保育園に入園申請をした母親のうち、4月に子どもが入園したのは47.2%と半数を割った。6.9%は自治体の助成を受けている認可外保育所(例:東京都認証保育所)、2.4%はその他の認可外保育施設に入園した。39.9%は、4月時点でどこにも預けていなかった。

認可保育園への入園は、申請時点で母親が就労している場合は66.3%、求職中の場合は16.8%だった。年齢枠別では、2歳児枠の入園割合が最も低く、38.7%だった。

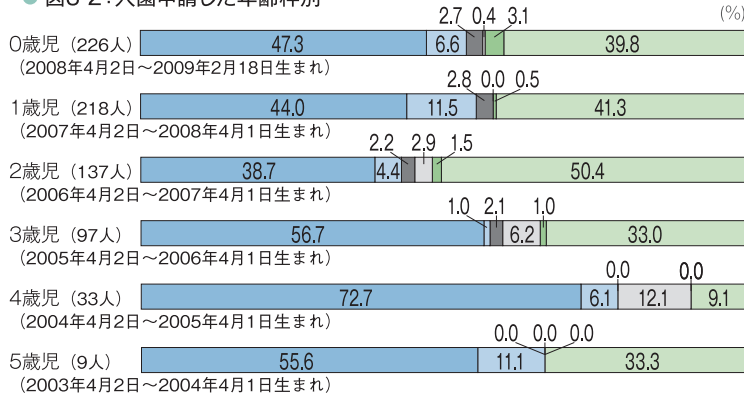
Q 2009年4月において入園・利用を決定された保育サービスについて、あてはまるものをひとつ選んでください。

■認可保育園 ■自治体の助成を受けている認可外保育所 ■その他の認可外保育施設 ■幼稚園 ■その他 ■預けていない・利用していない

● 図3-1: 子どもを預けたい理由別



● 図3-2: 入園申請した年齢枠別



※「その他」には、選択肢として用意した「市区町村の保育ママ」「認定こども園」「事業所内保育所」「ベビーシッター」「ファミリーサポート」も含む。

子どもを保育サービスに預けたい理由別に認可保育園への入園割合をみると、「就労しているから」が最も高く、66.3%であった。次いで、「産休・育児休業から復職するから」で、52.7%だった。「就労予定があるから(すでに内定している)」の場合は、48.3%と半数を割る。最も入園割合が低かったのは、「求職中だから」で16.8%だった。

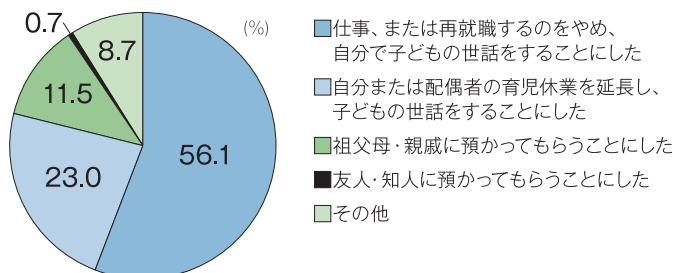
年齢枠別にみると、認可保育園への入園割合が最も低かったのは2歳児枠で、申請した家庭の38.7%であった。次いで、1歳児枠(44.0%)、0歳児枠(47.3%)であった。3歳児枠以上は、2歳児枠以下と比較して認可保育園への入園割合が高い。

(本調査は、インターネットでの調査に回答した人が母集団となっており、各自治体の地域特性は反映されていない。)

4月時点で、子どもの預け先が決まらなかった母親の56.1%は、仕事、または再就職するのをやめた。

Q (預け先が決まらなかった人は) 対象のお子さんの保育を行うために、どうしましたか。

● 図4

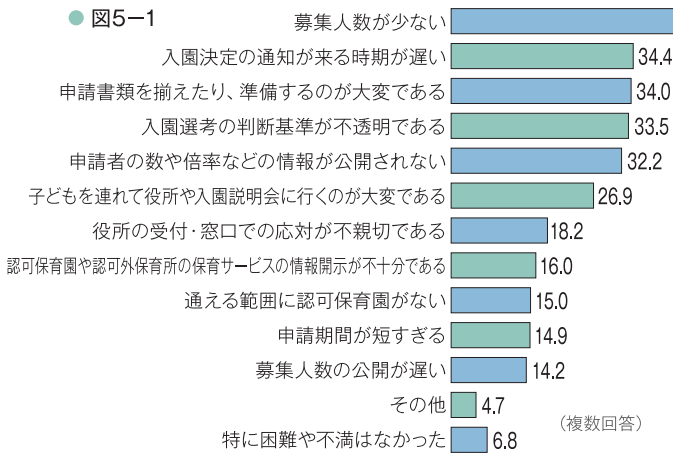


※4月時点で「預けていない・利用していない」と回答した287人

4月時点で預け先が決まらなかった母親には、対象の子どもの保育をどうしたのかをきいた。56.1%は、「仕事、または再就職するのをやめ、自分で子どもの世話をすることにした」と回答している。23.0%は、「自分または配偶者の育児休業を延長し、子どもの世話をすることにした」(育児・介護休業法では、子どもが満1歳となる休業期間明けの時点で預け先が見つからなかった場合、休業を1歳6ヶ月に達するまで延長できる)。11.5%は、「祖父母・親戚に子どもを預かってもらうことにした」と回答している。

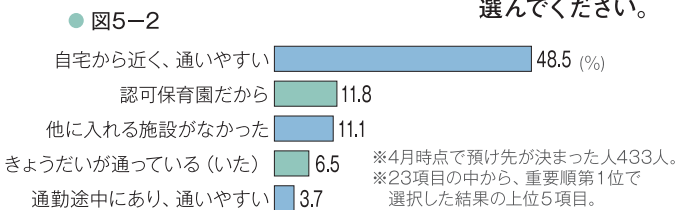
認可保育園への入園申請にあたり、大変だったこと・不満だったことのトップは「募集人数が少ない」こと。

Q 認可保育園への入園申請にあたり、大変だったことや不満だったことは何ですか。



申請した母親たちが大変だったこと・不満だったことは、「募集人数が少ない」(70.8%)が圧倒的に多かった。次いで「入園決定の通知が来る時期が遅い」(34.4%)、「申請書類を揃えたり、準備するのが大変である」(34.0%)「入園選考の判断基準が不透明である」(33.5%)が続く。入園決定の時期は、自治体によって異なるが、2月中旬から3月上旬に通知するところが多いようである。この時期は、仕事上の異動や引っ越し、子どもの進学準備など、生活が大きく変化する時期でもあり、早めの結果の通知を望む声が多い。また、情報公開している自治体もあるが、「申請者の数や倍率などの情報が公開されない」という不満も32.2%あった。

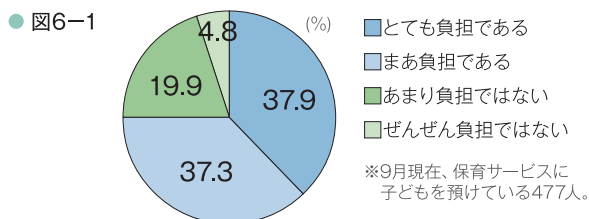
Q 2009年4月において選ばれた保育サービスに決めた理由について、あてはまるものを重視した順に3つまで選んでください。



4月に入園を決定した保育サービスを選ぶ理由について、23項目から重要な順に3つまで選んでもらったところ、最も重要視した項目の第1位は、「自宅から近く、通いやすい」(48.5%)だった。小さな子どもを毎日保育園に送迎するのは大変なことである。多くの母親は、できるだけ自宅から近い保育園に入園できることを重視している。

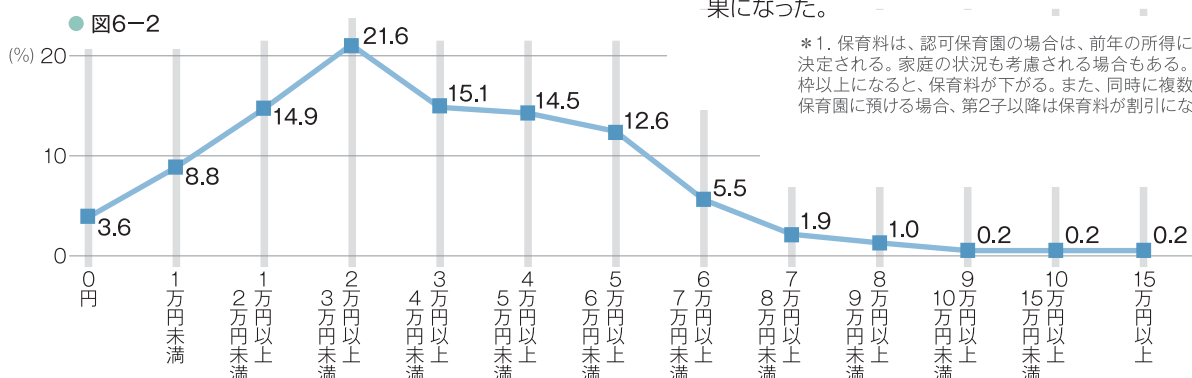
月々の保育料の家計への負担は75.2%の母親が感じている。

Q 現在、月々の保育料の支払いについて、あなたのご家庭ではどのように感じますか。



現在子どもを保育サービスに預けている母親477人に、保育料の負担感についてきいてみたところ、全体の75.2%が負担を感じていた(「とても負担である」37.9%+「まあ負担である」37.3%)。対象の子どもについての1ヶ月あたりの保育料は2万円以上3万円未満が最も多く、全体の21.6%であった。預け先や家庭状況、子どもの年齢枠等によって保育料は変わるが(*1)、保育料の負担は7割以上の母親が感じている結果になった。

Q 現在、対象のお子さんを預けている保育サービスに収めている1ヶ月あたりの保育料について教えてください。

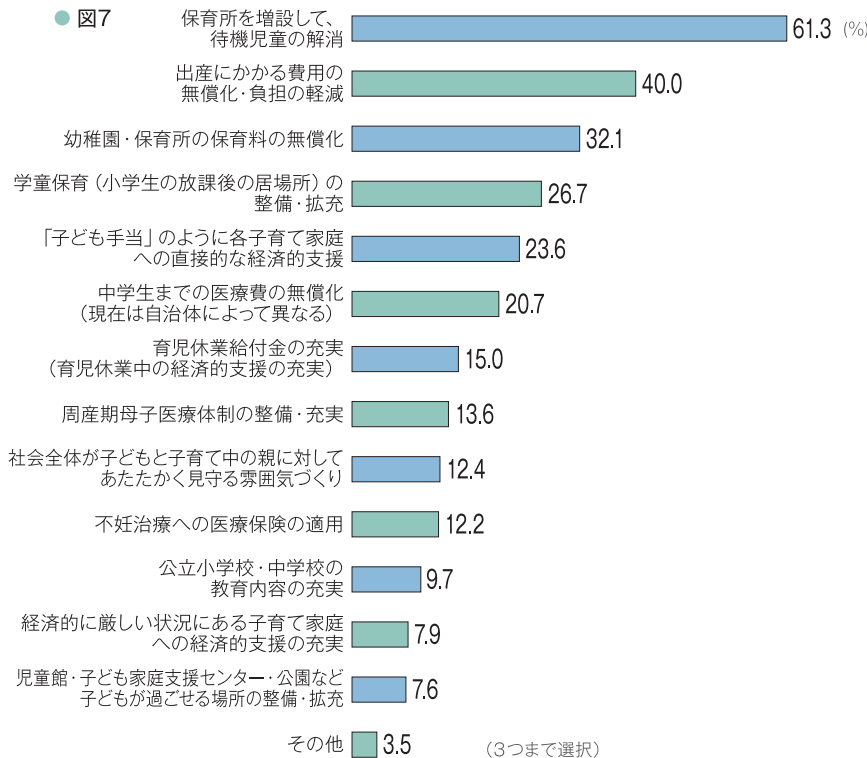


*1. 保育料は、認可保育園の場合は、前年の所得に応じて保育料が決定される。家庭の状況も考慮される場合もある。子どもが3歳児枠以上になると、保育料が下がる。また、同時に複数の子どもを認可保育園に預ける場合、第2子以降は保育料が割引になることが多い。

※9月現在、保育サービスに子どもを預けている477人。
※延長保育料や夜食代など、定期的に月極めで支払うものも含む。

子育て支援の重要課題は、「保育所を増設して、待機児童の解消」が第1位。

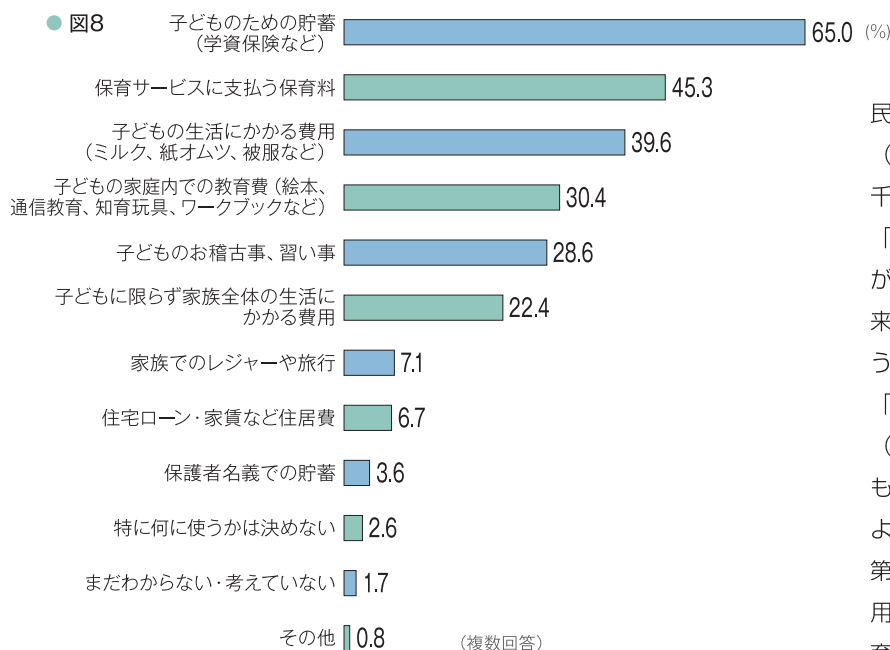
Q より子育てしやすい環境を整えるために、あなたは妊娠・出産・子育てに関連するどの課題を解決するのが重要だと思いますか。



14項目の中で、他を大きく引き離して第1位は、「保育所を増設して、待機児童の解消」(61.3%)である。第2位は「出産にかかる費用の無償化・負担の軽減」(40.0%)である。未就学児を持つ母親は、自分自身の妊娠・出産経験や、今後の妊娠・出産を考えて、重要な課題としてとらえているのだろう。第3位は「幼稚園・保育所の保育料の無償化」(32.1%)である。本調査の対象は働く母親が多いこともあるのか、第4位には「学童保育の整備・拡充」(26.7%)があがった。近い将来直面する、小学校入学後の放課後の居場所の確保を既に課題として意識している。

「子ども手当」、使い道の第1位は子どものための貯蓄。第2位は保育サービスに支払う保育料として使いたい。

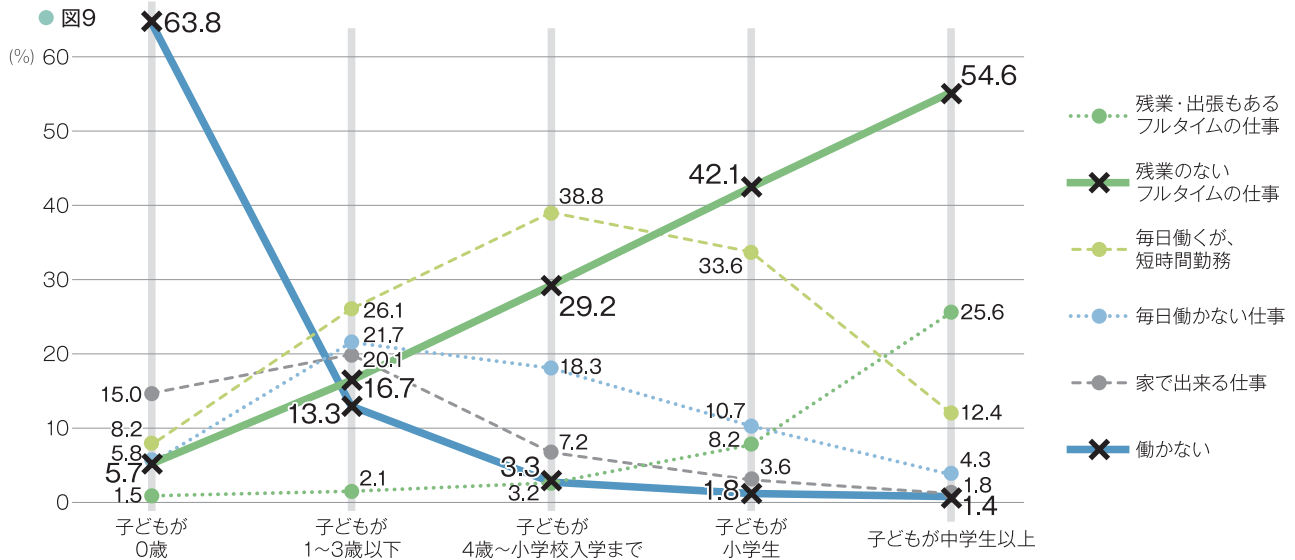
Q 「子ども手当」が支給されたら、あなたはどのように活用したいと思いますか。



民主党が政権公約に掲げた「子ども手当」(2011年から子ども1人あたり月額2万6千円を中学卒業まで支給)の使い道は、「子どものための貯蓄(学資保険など)」が突出して第1位で、65.0%であった。将来予測される教育費などの支出に備えようとする人が多いのだろうか。第2位は「保育サービスに支払う保育料」(45.3%)であった。本調査の対象は子どもを保育サービスに預けている、又は預けようとしていた母親が多いためであろう。第3位以降は、「子どもの生活にかかる費用」(39.6%)、「子どもの家庭内での教育費」(30.4%)「子どものお稽古事、習い事」(28.6%)、と続く。

子どもが0歳の時は「働かない」を希望する母親は63.8%いる。「残業のないフルタイムの仕事」は、子どもの成長とともに選ばれる割合が上がっていく。

Q 子どもの成長段階ごとにあなたが希望する働き方について、各段階で最もあてはまるものをひとつ選んでください。



子どもの成長段階ごとに希望する働き方について尋ねた。年齢別にみると、子どもが0歳の時は、「働かない」ことを希望する人が63.8%と6割を超える。子どもが1~3歳では、「毎日働くが短時間勤務」(26.1%)、「毎日働かない仕事」(21.7%)、「家で出来る仕事」(20.1%)への希望が多い。4歳~小学校入学前になると「毎日働くが短時間勤務」という働き方が38.8%で最も多い。「残業のないフルタイムの仕事」を希望する割合は、子どもの成長とともに割合が上がっていき、子どもが小学生の時では42.1%、子どもが中学生以上では54.6%と半数を超える。「残業・出張もあるフルタイムの仕事」は、子どもが中学生以上の母親では、

25.6%と4人に1人が希望している。子どもが小さいうちは、育児を優先して働く時間をセーブし、子どもの成長とともに、仕事の割合を増やしていきたいという母親たちの希望がうかがわれる。

しかし、本調査で、未就学児を預けて働いている母親は、子どものすべての年齢において、週に5日間、保育サービスに子どもを預けている割合が多く、全体では82.4%であった。また、1日に子どもを預けている時間は、平均8時間38分である。本調査の対象は首都圏在住の母親なので、職場までの通勤時間がある程度加味しても、毎日、フルタイムに近い勤務体制で働く母親像が浮かび上がってくる。

調査全体をふりかえって

本調査は、首都圏の認可保育園に入園申請をした母親を対象として、4月時点での預け先の実態などを調べたものである。インターネットでの調査に回答した人が母集団となっているため、各自治体の対象世帯を正確に代表したものとはなっていないが、認可保育園に入園を希望した母親が、入園の有無によって自身の生活や子どもの保育をどうしたかなどを720人の声からみることができる。2009年4月時点での認可保育園への入園は、47.2%と半数を割り、約4割は預け先が決まらなかった。預け先が決まらなかった母親は、その56.1%が仕事、または再就職を

やめた。首都圏では、預けたい時から、通える場所に、預け先を見つけることが困難になっているといえる。よって、回答者は、子育て支援として「保育所を増設し、待機児童の解消」を重要な課題にあげている。

また、母親の働き方については、子どもの成長に応じて、短時間勤務から残業のないフルタイムの働き方を希望する割合が上がっている。待機児童の解消とともに、子どもをもつ女性が、育児か仕事の二者択一を迫られるのではなく、子どもの成長段階に合わせて育児と仕事を両立できる制度や風土がさらに普及していくことが望まれている。